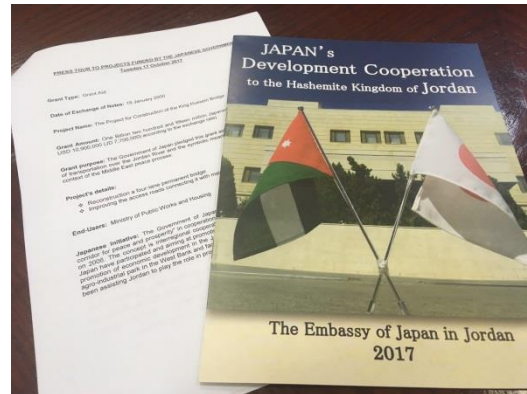


## 「現地メディア向けプレスツアーを行いました」

2017年10月17日、国際社会における「平和と繁栄の回廊」構想（※）に関する評価の高まりを受け、同構想において重要な役割を担うヨルダンと西岸地域を結ぶキングフセイン橋における「キングフセイン橋架け替え計画」（1999年度無償資金協力）に関する現地メディア向けプレスツアーを実施し、新聞・テレビ7社9名のジャーナリストとカメラマンが参加しました。このプレスツアーは、日本の開発協力が現地メディアで取り上げられる機会を増やし、ヨルダン国の政府関係者、知識層及びヨルダン国民への情報発信を強化するためのものです。

（※）イスラエル・パレスチナ間の和平には「二国家解決」の実現が重要との前提に立ち、イスラエル、ヨルダン等近隣諸国とも協力した持続的な経済開発を伴う健全なパレスチナ国家の樹立を目指す構想。



視察開始前、キングフセイン橋国境施設を管轄する公共事業省のサミ・ハラーセ大臣及び当館次席より、本プレスツアーの目的及び本事業や今後のキングフセイン橋国境施設改良計画に係る概要説明が行なわれました。（要旨は以下の通り）

（1）イスラエル・パレスチナ間の和平交渉が停滞し、ヨルダン川西岸地域の治安状況が悪化する中、2006年7月に日本が提唱した「平和と繁栄の回廊」構想を具現化する取り組みの一つであるジェリコ地域における農産加工団地（JAIP）は、パレスチナの持続的な経済開発に貢献しているとして、国際社会に高く評価されています。

（2）ヨルダンについては、同構想及びJAIPの発展を推進する上で、特にヨルダンと西岸地域を結ぶキングフセイン橋を中心とした物流面において協力の期待が高まっており、日本としても定期的に閣僚級会合や事務レベル会合を開催する中で、ヨルダンの同分野への取組を支援することを検討しています。

（3）日本が実施した「キングフセイン橋架け替え計画」は、ヨルダンとパレスチナ間の人及び物資の交流拡大に大きな影響を及ぼしたことから、ヨルダン政府からの評価も高く、同分野における日本のプレゼンスが高まっています。

（４）このため、昨今のヨルダンとパレスチナ間の益々の交流拡大を受けてヨルダンが計画中のキングフセイン橋国境施設の改良についても、日本への更なる協力が期待されています。



概要説明後、キングフセイン橋に移動し、ハラセ大臣から改めて日本の協力に対して感謝が述べられました。



また、現在計画中の新たなキングフセイン橋国境施設の予定地の視察も行われ、各メディアから日本の構想や今後の協力等に関する質疑応答が行われ、日本の協力に関心が集まりました。

プレスツアー後、参加者からは「日本の支援内容だけでなく、その背景にある構想も関連づけて説明があり、日本の支援に対する理解・関心が高まった。」といった声が聞かれました。また、各紙・テレビで、今回のツアーの様子が多数報道されました。多くの庶民が目にする新聞各紙やテレビで開発協力事業が取り上げられることで、ODAを通じたヨルダンに対する日本の協力への理解がより一層深まったのではないかと思います。